

北っ子 敷島北小学校だより

令和7年7月22日 文責 学校長 増坪広夫

夏休みは何か挑戦しよう

4月7日に始まった1学期でしたが、本日終業式を迎えることができました。保護者の皆様や地域の皆様の温かい見守りと御支援のおかげで、敷島北小の子どもたちが元気に充実した日々を過ごすことができました。心より感謝いたします。

さて7月23日から夏休みになります。各ご家庭でも既にいろいろな予定を立てていることでしょう。子供たちには楽しい思い出をたくさんつくってもらいたいと思っています。



夏休み中は子どもたちだけで過ごす時間が増え、行動範囲もかなり広がります。特にお金の使い方については、ご家庭でしっかりと把握してほしいです。お金の貸し借りなどのトラブルは小学校低学年であっても見られます。「出かけたときにどのくらいのお金を使ったのか」「友だちとの貸し借りはないか」など目をかけてください。正しい金銭感覚を養う上で、自分で与えられた範囲のお金を使うことは、とても大切な経験になります。最近ではネットゲームによる課金なども大きな社会問題になっていますので、そちらの方も注意が必要です。

また自由な時間がある夏休みだからこそ、時間の使い方についても子どもたちに考えさせたいものです。時間は十分あるにもかかわらず意外に何もしないで、ゲームやテレビを見て1日をなんとなく過ごしてしまう子もいるようです。時には「何も考えずにのんびり過ごす」ことも必要だと思いますが、毎日毎日何も考えずに過ごし「あっという間に2学期になってしまった」では、せっかくの長い夏休みを終えた充実感は得られないでしょう。

「お金と時間」は、どちらも「自分自身でうまく使いこなせる」ようにならなければいけません。ただ、どちらもうまく使いこなすには自制(我慢)や様々な判断が必要となります。だからこそ大人がしっかりと子どもたちに教え、賢く使いこなせるように目をかけてあげる必要があります。最近のニュースでは水の事故も多いようです。子どもたちにとって有意義な夏休みになりますよう重ねてご指導をお願いいたします。



授業参観・学年総会への御参加ありがとうございました

授業参観・学年総会への御参加ありがとうございました。子供たちの様子はいかがだったでしょうか。授業参観は当然自分のお子さんに目が向くはずですが、お子さんがどんな集団の中で過ごしているのかも見ていただけたことかと思います。お子さんが普段「どのような環境」で「どのように学んでいるか」などについて興味を持っていただく機会になったとすれば幸いです。

でこぼこ 人は誰にでも凸凹がある

本日、1学期の学習の成果とも言える「あゆみ」が担任から手渡されたことと思います。きっと「○」や「△」の数に一喜一憂している子も多いことでしょう。

さて、私は常々ほとんどの人が「何らかの苦手なところをもっている」と思っています。「運動は得意だけれど勉強はどうも苦手」「国語は好きだけれど理科や算数は難しい」など、身近にこんな悩みを持っている人は多いように思います。人は、それだけ個性が幅広い生き物であり、性格面や能力面など、いろんな面で凸凹があるのが普通です。このことを、大多数の人は頭では理解しているにもかかわらず厳しく矯正しようとしがちです。特に「自分の意見が言えない」「整理整頓ができない」など、子どもの凹の部分が気になり、しつこく責めたて、どうにかしようとする人が多いような気がします。また、何か凸の部分（優れていること）があると、それをさらに伸ばそうと必要以上に叱咤激励しがちです。しかし、親や周りが躍起になればなるほど違う課題が生まれ、もっと大きな問題を引き起こしてしまうことも多いようです。特に「子どもを強制的に凸のない人間に育てよう」と頑張りすぎると予想外の問題が生じがちです。



「人間は、凹凸があって当たり前」

「得意なところを伸ばすことによって、自分に自信がつき、課題だった凸の部分が目立たなくなる」

こんな考え方のほうが、実はうまくいくことが多いような気がしてなりません。

失敗しなかった日は、何も挑戦しなかった日

相対性理論で有名な物理学者アインシュタインの名言には、こんなものがあります。

「挫折を経験したことが無い者は、何も新しい事に挑戦したことが無いということだ」

アインシュタインはある日の大学の授業で、黒板にこんな数式を書きました。

「 $9 \times 1 = 9$ $9 \times 2 = 18$ $9 \times 3 = 27$ $9 \times 4 = 36$ $9 \times 5 = 45$ $9 \times 6 = 54 \dots$ 」

そして最後に「 $9 \times 10 = 91$ 」と書くと、その授業を聞いていた学生たちは、そのまちがいを見つけると大笑いをしてアインシュタインをバカにしました。「 9×10 」の正解は「91」でなく「90」だからです。アインシュタインは、学生たちが静かになるのを待ってこんな話を始めました。

「私が9つの問題を正解したのに、誰も私をほめてくれなかった」

「でも、たった1つ間違えたら、みんな笑い始めた」

「ある人が『どれだけ成功』しても、社会は、ほんの小さな間違いを見つけて指摘する」

「間違いは成功するための道のりの1つということを忘れないで欲しい」

「しかし世の中には決して間違えない人がいる」

「それは何も挑戦しなかった人だ」

「君たちには失敗を恐れて『何もしない大人』にはなってほしくないと思う」

「間違いを間違いだと思わず『挑戦し続けてほしい』と心から思う」



アインシュタインの名言は数多くありますが、こんな言葉もあります。

「昨日から学び、今日を生き、明日へ期待しよう」

先人たちの言葉は、私たちに「生きる力」を与え、深く心にささります。